

ご意見概要	回答・対応の方向性
<p>【まちづくり計画（素案）の確認】 (意見無し)</p>	<p>—</p>
<p>【地域主体のまちづくりについて】 ※シノロリビング vol. 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シノロリビング調査結果を見ると多くの方が、自転車または自動車にて通われていると思う。そのため、J R高架下の有効活用で駐輪場、駐車場を整備していただきたい。そうすることで今後シノロリビングに通いやすくなると思う。 ● 今回の規模では、民間で開催するとなれば商売にならないと思う。もう少し人を多く集めるため、交通機関を充実させた方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐輪場については、駅前にある駐輪場を高架下に配置する形で検討を進めている。駐車場については、今後の土地活用の中で、総合的に検討していくことになる。 ● イベントなどの一時的な利用者増に対応する方法は都度考えて行く必要がある。頂いたご意見は共有し検討していきたい。
<p>【今後のまちづくり活動の展開について】 ※全体発表・総括のとりまとめ・・・(仮称)篠路 OPEN! Meeting の在り方</p> <p>—1 班目—</p> <ul style="list-style-type: none"> ● そもそもシノロリビングは限られた場所で開催しており、地域のイベントとして開催するにも狭い。事業が色々進んでいくと規模の大きなイベントができるような場所ができてくる。そういったところで、連携していくには<u>商店街など地域の方々が入っていくことが大事。</u> ● 町内会やシノロリビングに参加された方、<u>アンケートで前向きな回答を頂いた方など、若手の方も入っていただきながら意見交換</u>をしていくことがポイントである。 ● 初めから大きい規模では大変かと思うので、今回の地域協議会程度の規模で実施したら良い。若い方を入れて大きいイベントは難しいと考えるため、<u>小さな取組から色々アイデアを頂き、意見交換しながらつくる。</u> ● <u>商店街など地域の方もシノロリビングに参加し地域の取組として育てていくと良い。</u> <p>—2 班目—</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ミーティングの規模としては、<u>最初は小人数で行った方が良い。大人数で行うと意見が出にくい</u>のではないかと。 ● なるべく時間を空けず<u>熱意のあるうちに行うほうが良い。</u> ● <u>自分のこととして、主体的に動ける人、コアとなって動ける人は必要。</u>そういった人たちは強制であっても参加いただくことに意味がある。 ● 若い人の意見が必要であるが、忙しい世代のため、<u>例えばオンライン会議を開催すれば良い</u>のではないかと。<u>SNSや学校等で授業を行うことも有り</u>なのではないかと。 ● 子どもが参加することで親御さんたちも参加し、<u>多世代が交流する一つのきっかけづくりになる。</u><u>ランターンや地域の歴史を知ることで、子どもたちが10年後、自分たちの地域がどうなるのかを深く考える良いきっかけになる</u>と思う。 ● <u>多世代が意見交換できる場、子どもが参加できる場が重要</u>である。 <p>—3 班目—</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オープンミーティングは<u>あくまでもアクションを行う場である</u>ことが大事。 ● 主体的に動ける人が見えてこないため、<u>シノロリビングにプレイヤーとして関わってきた方も重要な人材</u>と考え、そういった方々に声がけしながら、今見えていない方をいかに人材発掘するか。 ● <u>「子ども」がキーワードになると思われるので、学校での取組は、子どもとその親御さんなど若い世代も参加しやすい</u>のではないかと。そういったところも含め、<u>「(仮称)篠路 OPEN! Meeting」が多世代の交流の場になっていけば良い</u>が、始めはプレイヤーの方中心に話合える場とし、徐々にターゲット層を広げていければ良い。 	<p>—まとめ—</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今後のアクションを展開する上で、シノロリビングで得られた人脈や若い方々と意見交換していくことが重要。地域の方々が入ってくことも大事。 ● 主体的に動ける人、コアとなって動ける人が必要 ● 次のアクションはなるべく早く実施する方が良い。 ● 「気軽に話合える場、アクションを起こせる場」(フラットな場)が必要であり、参加を促すためにはSNSなども活用しつつ、求めている人材や活動内容を具体的に発信していくことも必要。 ● まずは、小さなことから始めていき、大きく育てていくことが必要であり、地域の課題を「自分ごと」や「地域ごと」として捉えられる人材を集めていくことが必要である。 ● 「子ども」がキーワードになると思われる。学校での取組は、子どもとその親御さんなど若い世代も参加しやすい。多世代交流のきっかけづくりにもなる ● 地域協議会は今回で最後となるが、同じような意見を持っている方がいれば声がけするなど、委員には今後とも協力をお願いしたい。